HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	皇居の動物相調査で得られたチャタテムシ目昆虫
Author(s)	吉澤, 和徳
Citation	国立科学博物館専報, 36, 29-34
Issue Date	2000-12-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/48150
Type	article
File Information	MemNat2000_36.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

国立科博専報，(36)，2000年12月25日
Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (36), December 25, 2000

皇居の動物相調査で得られたチャタテムシ目昆虫

吉　澤　和　徳[1)]

Kazunori Yoshizawa[1)]: Psocopteran Insects Collected through Biological Investigations of the Imperial Palace, Tokyo

チャタテムシ目は世界から36科309属約3860種 (Lienhard, 1998)，国内からは21科49属98種 (Yoshizawa, 2000) が知られる比較的小さな分類群である．本目は体長1～10 mm程度の小型の種から構成され，大きく発達した後頭楯，鑿状の内葉，長い触角，よく発達した中・後胸等で特徴づけられる．チャタテムシ目は陸上のさまざまな場所に棲息しているが，一般に多湿な環境を好み，カビ，地衣類，乾燥動物片等を食べている．これまでの動物相調査等においてチャタテムシ目が重視されることは少なかったが，本目が樹冠部に棲息する昆虫類の重要な構成要素で，昆虫の多様度を示す良い指標となりうることを示した研究もある (García Aldrete, 1996).

筆者は，1998年と1999年に，国立科学博物館によって行われた皇居の動物相調査に参加し，チャタテムシ目昆虫を調査する機会を得た．本稿では，この調査で採集されたチャタテムシ目昆虫を報告する．

今回の調査でお世話になった宮内庁庭園課の皆様に心よりお礼申し上げる．

材料および方法

調査は1998年と1999年に計5回，おもにビーティング法により行った．樹幹や岩の表面に棲息する種は，目視により採集した．

目録の配列はLienhard (1998) 等，現在広く受け入れられている体系に従っている．種の学名は，原則として富田・芳賀（1991）によるが，ケチャタテ科に関してはMockford (1999) のモノグラフの中で多くの種の所属が変更されており，本稿でもそれに従った．個々の種には，おおよそ種が特定できる形態的特徴の記述を加えた．今回の調査で得られた種の中には，未記載と思われるものも含まれているが，本稿では種名未決定のままで取り上げた．科までの検索は，富田・芳賀（1991）を参照されたい．

標本は筆者が保管する一部を除いて，国立科学博物館に収蔵される．

結果および考察

今回の調査では，チャタテムシ目昆虫12科17属23種が採集された．これらは，関東地方も含め，国内の平野部にごく普通に見られる種から構成されている．筆者自身の関東地方平野部での調査・採集が不十分で，同地域のチャタテムシ相を十分に把握しておらず，また比較できるデータもないため，

1) 日本学術振興会特別研究員／九州大学大学院比較社会文化研究院生物体系学教室
JSPS Research Fellow (PD)/Biosystematics Laboratory, Graduate School of Social and Cultural Studies, Kyushu University
現住所：北海道大学農学部昆虫体系学教室，札幌市北区北9条西9丁目
Present address: Systematic Entomology, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, 060-8589 Japan
E-mail: psocid@res.agr.hokudai.ac.jp

本稿で皇居のチャタテムシ相の特徴を論じることはできない．しかし，関東地方も含め平野部でごく普通に採集される種であるにもかかわらず，本調査で採集されなかった種として，ケブカチャタテ科のハグルマチャタテ *Matsumuraiella radiopicta* Enderlein, 1906 や，ニセケチャタテ科のニセケチャタテ *Heterocaecilius solocipennis* (Enderlein, 1906)，チャタテ科の *Psococerastis* 属や *Trichadenotecnum* 属の種等が挙げられよう．さらに，建造物内にはコナチャタテ科やヒメチャタテ科の種が棲息している可能性は高いが，これは今回の調査対象外である．

以下に調査で得られたチャタテムシ目昆虫の目録を掲げる．

Psocoptera チャタテムシ目
Trogiomorpha コチャタテ亜目
Trogiidae コチャタテ科

Cerobasis guestfalica (Kolbe, 1880)

9♀, 4若虫, 6.vii.1998; 3♀, 1若虫, 8.ix.1999.

体長2 mm程度．無翅で，丸く扁平な体形が特徴．生物学研究所裏の針葉樹から得られた．国内に広く分布する普通種．

Troctomorpha コナチャタテ亜目
Amphientomidae ウロコチャタテ科

Stimulopalpus japonicus Enderlein, 1906 オオウロコチャタテ

2若虫, 28.v.1998; 7♀, 6.vii.1998; 2♀, 21.x.1998; 5♀, 8.ix.1999.

前翅長約3.5 mmの中型のチャタテムシで，前翅は鱗片に被われ，黒地に淡灰色の斑紋を具える．頭頂部に一対の白色円形斑があるのが特徴．吹上御苑内にある岩の表面から採集した．普通種で，人家のブロック塀などでもよく見られる．

Psocomorpha チャタテ亜目
Caeciliusidae ケチャタテ科

本科のチャタテムシはいずれも広葉樹の生葉上から採集された．

Paracaecilius japanus (Enderlein, 1906) キイロケチャタテ

6♂, 32♀, 28.v.1998; 1♂, 13♀, 6.vii.1998; 2♀, 1若虫, 21.x.1998; 4♀, 14.vi.1999; 10♀, 8.ix.1999.

前翅長約3 mm．前翅を含め，体が一様に黄色を呈する．国内に広く分布する普通種．

Valenzuela badiostigma (Enderlein, 1906) トビモンケチャタテ

1♀, 6.vii.1998; 1♀, 8.ix.1999.

前翅長約3 mm．黒色の前翅と赤い体が特徴．国内に広く分布する普通種．

Valenzuela oyamai (Enderlein, 1906) キモンケチャタテ

1♀, 28.v.1998; 3♂, 8♀, 6.vii.1998; 1♀, 21.x.1998; 2♂, 17♀, 14.vi.1999.

前翅長約3 mm．黒色の前翅に一対の黄白色斑を具える点が特徴．国内に広く分布する普通種．

Valenzuela flavidus (Stephens, 1836)

10♂, 9♀, 28.v.1998; 1♀, 6.vii.1998; 4♀, 14.vi.1999.

前翅長約3 mm．黄色中型のチャタテムシで，黒色の触角と，前翅翅脈の端半部のみが黒色を呈する点が特徴．国内からはこれが初記録となるが，広く分布する普通種である．国外では全北区に広く分布し，極東地域からも記録がある．*V. kamakurensis* (Okamoto, 1910) は本種に極め

て似ており，同種である可能性も高い．

Valenzuela scriptus (Enderlein, 1906)

11♂, 24♀, 28.v.1998; 5♂, 15♀, 6.vii.1998; 1♀, 8.ix.1999.

前翅長約 3.5 mm．前種に似るが，前翅斑紋がより強く発達する点や，後頭楯が褐色を呈する点で，容易に識別できる．国内に広く分布する普通種．明瞭な雌雄 2 型を示し，雄はより前翅斑紋が強い．

Stenopsocidae ホソチャタテ科

Graphopsocus cruciatus (Linnaeus, 1768) ヨツモンホソチャタテ

1♂, 1♀, 6.vii.1998.

前翅長約 3 mm の中型種．頭部，胸部は淡褐色，腹部は黄色．前翅は透明で，膜質部に明瞭な褐色斑を具える．生物学研究所周辺の広葉樹のビーティングにより得られた．国内に広く分布する普通種．

Stenopsocus aphidiformis Enderlein, 1906 ホソチャタテ

4♂, 14.vi.1999.

前翅長約 5 mm の大型の黄色のチャタテムシ．前翅 Cu_2 脈に毛を有する点が特徴．吹上御苑内の林床のササ類のビーティングにより得られた．国内に広く分布する普通種．

Ectopsocidae ウスイロチャタテ科

本科のチャタテムシは小型で，体色は一般に褐色から黒褐色を呈する．枯れ葉上に棲息し，以下の 3 種もおもに吹上御苑内の枯れ枝のビーティングで採集された．

Ectopsocopsis cryptomeriae (Enderlein, 1907) クリイロチャタテ

3♂, 8♀, 28.v.1998; 9♂, 12♀, 6.vii.1998; 13♂, 11♀, 8.ix.1999.

前翅長約 1.5 mm．黒褐色の体色に加え，雄外部生殖器が背面に大きく迫り出し腹部全長の 1/3 以上に達すること，雌生殖突起が著しく退化することで，他の種から明瞭に区別できる．国内に広く分布する普通種．

Ectopsocus sp.

3♂, 3♀, 28.v.1998; 4♂, 13♀, 8.ix.1999.

前翅長約 1.5 mm．前種に似るが，体色は褐色で，雄雌交尾器に上記のような特徴が見られない．本属の種はいずれも外見上きわめてよく似ているが，雄第 9 背板背面の clunial comb field 前部に 1 つの微小突起群を具えること，雌交尾器亜生殖板が広く骨化すること等で，次種から区別できる．富田・芳賀（1991）の記録した *Ectopsocus* sp. と同種と思われる．

Ectopsocus briggsi McLachlan, 1899

15♂, 33♀, 28.v.1998; 1♀, 21.x.1998; 16♂, 48♀, 6.vi.1998; 5♂, 21♀ 2 若虫, 14.vi.1999.

前翅長約 2 mm．前翅が透明または淡褐色で，翅縁の各脈の末端部に褐色の微小斑を具える点が特徴的．雄第 9 背板背面の clunial comb field 前部に一対の微小突起群を具え，雌交尾器亜生殖板は V 字型に骨化する．国内に広く分布する普通種．

Peripsocidae マドチャタテ科

Peripsocus phaeopterus (Stephens, 1836)

1♂, 11♀, 6.vii.1998.

前翅長約 3 mm の中型種．雄第 9 背板背面後縁部が半円状に突出し，その縁が鋸歯状を呈する

点，雌交尾器亜生殖板突起先端にV字状の切れ込みを有する点等で他の種から区別できる．日本からは，これが初記録となるが，筆者はすでに国内各地で採集している．国外では，全北区に広く分布しており，極東ロシアからも記録がある．

Peripsocus quercicola Enderlein, 1906 ヒメマドチャタテ

2♀, 28.v.1998; 1♀, 8.ix.1999.

前翅長約2.5 mm．前種によく似るが，雄第9背板背面後縁部に微小な突出部を具える点や，雌交尾器亜生殖板突起が長方形でその後縁が直線的な点等で，他の種から区別できる．国内に広く分布する普通種．

Peripsocus sp.

1♀, 6.vii.1998; 1♂, 14.vi.1999; 8♂, 2♀, 8.ix.1999.

前翅長約1.5 mmの小型種．雄第9背板後縁部に突出部を有しない点や，雌交尾器亜生殖板突起先端にU字状の幅広い切れ込みを有すること等で，前2種から区別できる．

Pseudocaeciliidae ニセケチャタテ科

Mepleres suzukii (Okamoto, 1910) ナガケチャタテ

1♀, 21.x.1998.

前翅長2–2.5 mmほどの小型種．前翅M脈が2分岐すること，前翅に明瞭な褐色斑を具えることで，容易に同定できる．吹上御苑の梅林で得られた．本州，四国，九州に分布するが，個体数は少ない．

Philotarsidae クロフチャタテ科

Aaroniella sp.

1♀, 6.vii.1998.

前翅長約3 mm．前翅翅脈に微小黒斑を備え，各微小斑から毛が1本ずつ生じる点で，属までの同定が可能である．本属の国内からのこれまでの記録は，種名未決定の1種があるのみだが(富田・芳賀，1991)，筆者はこれまで国内各地から複数種の標本を得ている．吹上御苑内のアカマツの枝から採集した．

Mesopsocidae マルチャタテ科

Idatenopsocus orientalis (Vishniakova, 1986)

2♂, 1若虫, 21.x.1998.

前翅長3.5–4 mm程度の比較的大型のチャタテムシ．頭頂部を除き頭部がほぼ一様に黒色で，短い眼柄を具えること，前翅に淡褐色斑を持つこと等で特徴づけられる．吹上御苑内の石燈篭および梅林付近のケヤキの樹幹から得られた．北海道から九州まで広く分布し，樹幹や岩の表面に普通に見られる．しばしば荒い網を張り，その下に1～数頭が見られる．

Mesopsocus laticeps (Kolbe, 1880)

1若虫, 28.v.1998; 1若虫, 6.vii.1998.

前翅長4.5–5 mm程度の大型種．前種同様短い眼柄を具えるが，頭部は白色で頭頂部に一対の明瞭な黒色斑を具えること，前翅膜質部に斑紋を持たないこと等で容易に区別できる．本調査で得られた標本はすべて幼虫であったが，頭部に上記の特徴が見られた．本州と九州から記録がある普通種．

Hemipsocidae スカシチャタテ科

Hemipsocus chloroticus (Hagen, 1859) スカシチャタテ

1若虫, 28.v.1998; 2♂, 1若虫, 6.vii.1998; 4♂, 5♀, 3若虫, 21.x.1998.

前翅長約3mmの中型淡褐色のチャタテムシで，前翅後小室がM脈と横脈で結ばれ，またM脈が2分岐する点が特徴．おもに吹上御苑の林床に落ちている枯れ葉のついた枯れ枝のビーティングで得られた．本州から沖縄まで広く分布し，枯れ葉からごく普通に採集される．

Psocidae チャタテ科

Amphigerontia jezoensis Okamoto, 1907 ジョウザンチャタテ

20♀, 28.v.1998; 1♀, 14.vi.1999.

前翅長4–5mmの大型のチャタテ．前翅は一様に褐色を呈し，触角長と前翅長はほぼ等しい．国内に広く分布する普通種．

Blaste sp.

1♂, 6.vii.1998.

前翅長約3.5mmの中型種．前翅は透明．吹上御苑の梅林のウメのビーティングで得られた．本属の種は *Blaste obtusa* (Hagen, 1858) がこれまでに国内から記録されているが，同定に疑問がある．

Myopsocidae ホシチャタテ科

Lichenomima muscosa (Enderlein, 1906) ホシチャタテ

6♀, 6.vii.1998.

前翅長約5mmの大型種．前翅に一様に細かな褐色斑を備え，後翅Rs脈とM脈は横脈で結合する．生物学研究所前のケヤキの大木の樹幹から得られた．幼虫は数頭から数十頭の集団を形成する．本州と九州から記録がある普通種．

Summary

This paper reports the following 23 psocopteran species collected through biological investigations of the Imperial Palace of Japan in 1998 and 1999: Trogiidae — *Cerobasis guestfalica* (Kolbe); Amphientomidae — *Stimulopalpus japonicus* Enderlein; Caeciliusidae — *Paracaecilius japanus* (Enderlein), *Valenzuela badiostigma* (Enderlein), *V. oyamai* (Enderlein), *V. flavidus* (Stephens) (new record from Japan), *V. scriptus* (Enderlein); Stenopsocidae — *Graphopsocus cruciatus* (Linnaeus), *Stenopsocus aphidiformis* Enderlein; Ectopsocidae — *Ectopsocopsis cryptomeriae* (Enderlein), *Ectopsocus* sp., *E. briggsi* McLachlan; Peripsocidae — *Peripsocus phaeopterus* (Stephens, 1836) (new record from Japan), *P. quercicola* Enderlein, *P.* sp.; Pseudocaeciliidae — *Mepleres suzukii* (Okamoto); Philotarsidae — *Aaroniella* sp.; Mesopsocidae — *Idatenopsocus orientalis* (Vishniakova), *Mesopsocus laticeps* (Kolbe); Hemipsocidae — *Hemipsocus chloroticus* (Hagen); Psocidae — *Amphigerontia jezoensis* Okamoto, *Blaste* sp.; Myopsocidae — *Lichenomima muscosa* (Enderlein). Psocopteran fauna of the Imperial Palace is composed of species commonly found in lowland areas of Japan. In contrast, it lacks some species very common in lowland areas of Japan, such as *Matsumuraiella radiopicta* Enderlein (Amphipsocidae), *Heterocaecilius solocipennis* (Enderlein) (Pseudocaeciliidae), and species of *Psococerastis* and *Trichadenotecnum* (Psocidae). Species of Liposcelidae and Lachesillidae probably inhabit buildings in the Imperial Palace but those areas were not investigated.

引 用 文 献

García Aldrete, A. N., 1996. Richness of psocid species at the Rio Tambopata Reserve, Peruvian Amazonia. (Second International Workshop on Psocoptera, Geneva における口頭発表).

Lienhard, C., 1998. Psocopterès euro-méditerranéens. *Faune Fr.*, 83, 1–517.

Mockford, E., 1999. A classification of the psocopteran family Caeciliusidae (Caeciliidae auct.). *Trans. Am. ent. Soc.*, 125: 325–417.

富田康弘・芳賀和夫, 1991. 日本産チャタテムシ目の目録と検索表. 菅平研報, (12): 35–54.

Yoshizawa, K., 2000. A check list of Japanese Psocoptera. Ver. 1.6. http://homepage.mac.com/psocid/psoc.html.